

1 題材名 コードをもとに旋律をつくろう

＜教材名＞ ・おぼろ月夜（文部省唱歌） 高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲
・朧月夜～祈り 中島美嘉 作詞／葉加瀬太郎 作曲・編曲

＜学習指導要領との関わり＞

第2学年及び第3学年

A 表現（3）創作ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること
〔共通事項〕ア リズム、旋律、テクスチャ

2 題材について

（1） 題材の目標

リズム、旋律、構成、和音の響きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コード進行を手がかりにして旋律をつくることができる。

（2） 題材観

今回の学習指導要領改訂において、創作分野の指導事項は、感じ取る対象、思考判断の部分が明確になったとともに、新たに示された〔共通事項〕をかかわらせることにより、指導内容の焦点化や指導と評価の一体化がより一層図られることとなった。このことを踏まえ、本題材では、感じ取る対象をポピュラー音楽によく使われるコード進行とし、これを手がかりにして音と音とのかかわりに着目して簡単な旋律を創作したり、聴いたりできる能力を育成することをねらいとする。ここでいう「音と音とのかかわり」とは、リズム、旋律、和音のかかわりととらえることとする。さらに、「考える→試す→考える→…」といった思考・判断を繰り返していく学習過程の充実を図り、主体的に練習したり協力して工夫したりする資質の向上をねらいとする。

コード進行を基にした作曲技法は、J-POP など生徒たちが日頃慣れ親しんでいる音楽によく使われている。親しみや憧れをもった音楽に比較的簡単に近づくことができるという実感とともに、旋律を「自らつくった」という自信を持たせることで、今後の音楽学習への主体的なかかわりが期待できると考える。創作過程においては、「何が自分にとって最も魅力的か」を考え続けることで、音楽に対する感性が磨かれていく。これにより、他の生徒がつくった旋律や既存の音楽作品における旋律のよさやおもしろさについても目を開いていくこととなるであろう。そして、一つの音楽を生み出すまでにかかわった人々の思いや意図を、創作活動を通して考え、知り、身につけていくことは、すべての音楽活動を支える基礎となり、他の表現活動や鑑賞活動につながるものと考えられる。

また、音楽学習活動の過程で必要となるものが、音や音楽を媒体とした人と人とのかかわりである。学校教育における音楽学習活動では、自分とかかわった音や音楽に対する思いや考え、自分にとっての音楽的価値を言葉や音によるコミュニケーションを通して他者に伝えたり、共有したりすることが重要である。音によるコミュニケーションとは、自分の思いや意図を音で他者に伝えること、他者の思いや意図を、音を通して感じ取ることである。それらを支えるものとして言語活動があるととらえている。このようなコミュニケーションの力を育むためには、自己の「思い」「意図」をもつこと、それを表現するための技能を身に付けること、他者の「思い」「意図」を感じ取るための知識や感性をもつことが必要である。コミュニケーションの視点からも、言語活動を支えとしながら自己のイメージを膨らませ、音のつなげ方を工夫して旋律を創り上げ、互いに聴かせ合うといった創作学習に着目することは、意義がある。

以上のことから、本題材を設定した。創作活動経験の少ない中学3年生が、互いの音楽をどのように受け止め、自らどのように発信するのか、大変興味深く、また期待したいところである。

（3）生徒の実態

3年2組は男子16名、女子18名、計34名である。

音楽活動に対して真面目に取り組むが、歌唱など他者とのかかわりの中で自己を開放し表現する活動においては、非常に控え目である。創作は個人の活動がベースとなるが、本題材では、つくった旋律がイメージ通りのものとなっているかについて、友達と演奏を聴き合ったり、コード伴奏に合わせて聴き確かめたりしながら進めることができるような小集団活動を設定する。自分と作品とのかかわりだけでなく、互いの作品の演奏を聴き合ったり、助言をしたりするなど他者とのかかわりを持ちながら、創作活動を進めることで、自己の思いや意図を他者に伝える活動の充実を図ることができるであろう。

音楽活動の中からどのような活動を好む傾向があるか調査したところ、図1のようになった。全体的にみると、生徒は歌唱、器楽、鑑賞の活動を好んでいることが分かる。創作活動については、あまり好む傾向ではないことが明らかとなった。このことは、これまでの創作活動の経験が少ないか全く経験がないことも影響しているものと考えられる。

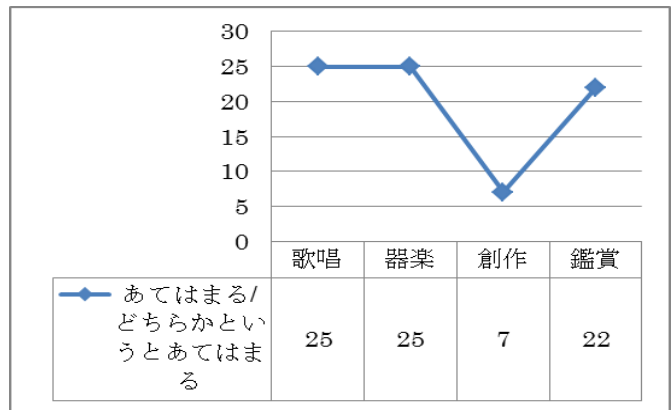


図1 好む活動傾向

図2は音や音楽をつくることへの興味・関心についての調査結果である。歌唱などの表現活動において、楽譜にかかれてある記号を忠実に再現することについての意識は高い。しかし、それは

表層的な表現にとどまることとなる。中学生の発達段階を踏まえ、音楽的な広がりや深まりを求めたい。そのためには、創造的な音楽活動が必要であろう。すなわち、音や音楽そのものに耳を傾け、様々な音楽的要素をとらえ、それらを工夫しようと自ら判断し、表現するといった活動である。

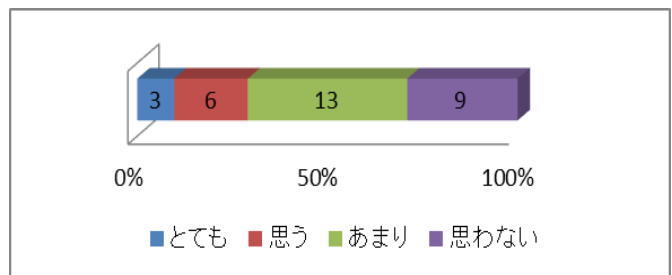


図2 音や音楽をつくってみたいか

創作だけでなくすべての音楽活動において、「自分で音楽をつくった」という実感をもたせることが課題であろう。本題材の創作活動がその足がかりとなることを期待する。

（4）指導観

創作分野の学習は、難しい楽典の理論を使わずとも簡単に音楽を作ることができる、と実感を持たせることが第一条件であると考え。そこで、本題材では、感じ取る対象を「ポピュラー音楽に使われているコード進行」とし、そのコード進行を手がかりとした旋律を創作する。ポピュラー音楽、とりわけJ-POPは、生徒たちの生活においてもっとも身近な音楽である。身近な音楽をもとにした題材を設定することで、親しみをもたせながら旋律づくりに取り組みせることができると考える。教材として「朧月夜～祈り」（中島美嘉 作詞／葉加瀬太郎 作曲・編曲）を取り上げる。

「朧月夜～祈り」は、ポップスと日本の音楽が融合された音楽である。曲は、現代風にアレンジされた「朧月夜」と、葉加瀬のオリジナルメロディと中島の歌詞による「祈り」の、2つの部分から構成されている。「朧月夜」の部分では、ポップスやバラードによく使われるベース下行パターンによるコード

進行で、原曲の美しい主旋律を運んでいる。一方、「祈り」の部分では、Am-F-G7-Cの循環コード進行で、原曲のゆったりとした美しい旋律を基調とした葉加瀬のオリジナルメロディを運んでいる。全体を通して、ヴァイオリン、箏、アコースティックギターなどの弦楽器の音色と中島の優しい声の響きが、ゆったりとした3拍子のリズムにのせて表現されており、新しい響きを味わうことができる。原曲とアレンジ曲の比較聴取によって、アレンジの面白さを味わうとともに、旋律づくりのイメージを膨らませやすいのではないかと考える。

授業はまず、「おぼろ月夜」の鑑賞をし、楽曲に対するイメージをもたせる。次に、2つの曲を比較聴取し、原曲の主旋律は同じでも、音色や旋律、和音の響きが変化すると印象が異なることに対して自分なりの考えをもたせる。気づかせたい音楽の要素として、ヴァイオリンや箏、アコースティックギターなどの音色、前奏部分や「祈り」部分、オブリガートなどの新たに加わった旋律、ポピュラー音楽ならではのコード進行による和音の響きなどである。この時点で、コード進行と旋律の関係に気づくことはおそらく難しいだろう。そこで、先ほど考えた自分なりのイメージを基に「新たな旋律をつくるには？」という投げかけからスタートさせたい。その作曲技法として、まず和音の構成音のみで音と音をつなげる手法を用いる。特定のコード進行を基に、和音の構成音といくつかのリズムパターンを組み合わせつつっていく方法である。なお、リズムパターンについて、すでに学習している3拍子のリズムパターンを用いることとする。

コード（和音）は旋律や楽曲の性格を方向付けたり決定したりするなど、重要な役割を担っている。ポピュラー音楽に使われるコード進行は多岐にわたり、その響きが醸し出す雰囲気は実に様々である。いわゆるヒットソングと呼ばれる楽曲では、聴き手の心を掴むコード進行というものが存在するなど、ポピュラー音楽におけるコード進行は作曲する上で重要な鍵を握っているのである。本題材では、「朧月夜～祈り」の「祈り」の部分のコード進行を取り上げる。「祈り」の部分ではAm-F-G7-Cの進行が使われ、これを繰り返す循環コード（厳密には逆循環コード）進行で成り立っている。「朧月夜」の原曲の部分は主要三和音（I・IV・V）を中心につくられており、安定感をもたらしている。これに対して「祈り」の部分は、不安定な雰囲気を醸し出すマイナーコードで始まり、主要三和音V（G7）－I（C）で終止する進行となっており、不安定とも安定とも言い切れない中間的な気分をもたらす。この進行はポピュラー音楽においては日本人が好む進行といわれ、よく使われている。「言葉にできない」（1981、小田和正）、「GET WILD」（1987、小室哲也）、「さよならバス」（1999、ゆず）などがそうである。コード進行を繰り返し聴くことで、使われている4つのコード（和音）の響きの移り変わりを概ね感じ取ることにはできるであろう。重なり方や響きの変化など音そのものに対する感覚は、旋律の動きにも着目することで、より鋭敏に働く。そこで、最初は和音の構成音のみで音と音をつなげる手法で旋律をつくる。響きの変化とともに移り変わる雰囲気を十分感じ取りながら創作活動をスタートさせたい。最終的には、自分のイメージをさらに膨らませながら、順次進行や跳躍進行の特徴を取り入れた4小節の旋律をつくり上げる。

また、創作学習においては、つくった作品を他者に伝える方法として、記譜によるものと演奏によるものの2つが考えられる。記譜については学習指導要領解説において、五線譜に限定せず指導することとあるが、本題材においては、やはり五線譜への記譜が合理的かつ効率的であると考えられる。音高や音価がひと目で分かること、演奏もしやすいことが理由である。しかしながら、五線譜に音符を記入することに対して負荷を感じる生徒もいる。そこで、いきなり五線譜に記入するのではなく、和音の構成音を階名表記したものから音を選び、つなげ、音を確認めたうえで、最後に五線譜に記譜をさせていく。

演奏については、生徒自身が行ってもよいし、教師が行ってもよいだろう。キーボードを使用するので、生徒は様々な音色を選ぶことができる。生徒自身が「これは」と思う音や音色を選び、つくった旋律に、教師が様々な伴奏の形を試しながら生徒のイメージする音楽へと方向づけることで、音楽表現の広がりを実感することができるであろう。これこそが、まさに音によるコミュニケーションであるといえる。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
循環コード進行の特徴に関心を持ち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	リズム、旋律、和音の響きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、循環コード進行の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	① 循環コード進行の特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方を身に付けて旋律をつくっている。 ② コード進行に合う音の組み合わせで「続く感じ」の旋律をつくり、楽譜に書いている。

4 題材の指導計画（2時間扱い）

時配	○学習内容 ・ 学習活動 ☆〔共通事項〕	教師の働きかけ	【評価規準】 □評価方法
第1時（本時）	<p>《ねらい》「朧月夜～祈り」に使われている循環コードをもとに、和音の構成音を使った4小節の旋律をつくる。</p> <p>○常時活動 ○本時の学習内容を知る。 ・「おぼろ月夜」（文部省唱歌）と「朧月夜～祈り」を比較鑑賞し、アレンジによる曲想の変化を感じ取る。 ・コード進行（Am-F-G7-C）を手がかりにして、簡単な旋律をつくることを知る。</p> <p>○「祈り」①までを聴き、学習の見通しをもつ。 ・「朧月夜～祈り」の全体構成を知る。 ・「祈り」①までを鑑賞し、「祈り」の旋律を確認する。</p> <p>○「朧月夜～祈り」に使われている循環コード進行（Am-F-G7-C）に合わせて、自分の選択したリズムパターンと和音の構成音のみを使った4小節の旋律をつくる。 ・旋律づくりの流れとルールについて確認する。 ・キーボードで音を確かめながら旋律をつくる。</p> <p>○つくった旋律を教師または生徒自身が演奏し、発表する。</p> <p>☆リズム、旋律、テクスチャ</p>	<p>・リズムカードと和音の構成音を掲示して、説明する。</p> <p>・キーボードを弾いて、リズムや音の組み合わせを自分のイメージとかかわらせてつくるよう促す。</p> <p>・クラスの半数を目安に、早く完成した生徒から発表させる。</p>	<p>【関-①】 循環コード進行の特徴に関心を持ち、和音の構成音を使って旋律をつくる学習に意欲的に取り組んでいる。 □活動の様子の観察 □振り返りカードの記述</p> <p>【技-①】 和音の構成音を生かした音の組み合わせで旋律をつくり、楽譜に書いている。 □ワークシート</p>

第2時	<p>《ねらい》自分のイメージとかかわらせながら、順次進行や跳躍進行の特徴を生かした4小節の旋律をつくる。</p>		
	<p>○「朧月夜～祈り」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構成を確認する。 ・「祈り」部分の旋律を知覚・感受し、自分なりのイメージを膨らませます。 <p>○循環コード進行をもとに、順次進行や跳躍進行の特徴を生かしながら、「続く感じ」または「終わる感じ」で終わる4小節の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音の構成音以外の音を入れ、順次進行や跳躍進行の旋律をつくる。 <p>○つくった旋律を発表し合い、よさを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師または生徒自身が演奏し、発表する。 <p>☆リズム、旋律、テクスチャ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人で分担して16小節の「祈り」の旋律をつくることを伝える。 ・リズムカードと和音の構成音を掲示して、丁寧に説明する。 	<p>【創①】</p> <p>音のつながり方をいろいろと試しながら、順次進行や跳躍進行の特徴を生かして、どのように旋律をつくりたいのかの思いや意図を記述している。</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシート</p> <p>【技①】</p> <p>コード進行に合う音の組み合わせで「続く感じ」の旋律をつくり、楽譜に書いている。 <input type="checkbox"/>作品</p>

5 本時の学習（1／2）

（1）本時の目標 「朧月夜～祈り」に使われている循環コードをもとに、4小節の旋律をつくる。

（2）視点とのかかわり

本題材では、《視点1》「思いや意図を伝えあう活動の充実を図るために」に焦点をあて、次の2点について検証する。

① 比較的親しみやすい身近な音楽を教材に取り上げることで、作品のイメージをもちやすくし、一人一人の思いや意図が確立されていくだろう。

旋律づくりでは、一人一人が音楽に対してイメージをもつことが前提となる。イメージは様々な経験の中から生み出される。ポピュラー音楽は生徒にとって日頃から慣れ親しんでいる身近な音楽経験であることから、旋律をつくる前にイメージを膨らませやすいではないかと考える。イメージを膨らませながら、どのように音と音とをつなげたらよいかについて試行錯誤を繰り返させたい。その過程において、自己の「思い」や「意図」は確立されていくであろう。

② 互いに聴き合うなど、他者とのかかわりを持つことのできる学習形態や場の設定を工夫することで、音によるコミュニケーションを図ることができるであろう。

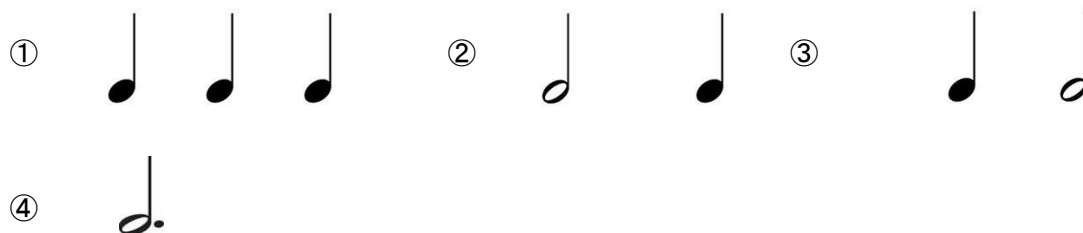
音によるコミュニケーションとは、自分の思いや意図を音で他者に伝えること、他者の思いや意図を、音を通して感じ取ることである。本時では、4人1組のグループで、16小節の「祈り」の旋律づくりを進める。個人の活動がベースとなるが、つくった旋律がイメージ通りのものとなっているかについて、友達と演奏を聴き合ったり、コード伴奏に合わせて聴き確かめたりしながら進めることができるような時間を設定する。これにより、自分と作品とのかかわりだけでなく、互いの演奏を聴き合ったり、助言をしたりするなど音を通じた他者とのかかわりを持ちながら、創作活動を進めることができるであろう。

（3）展開

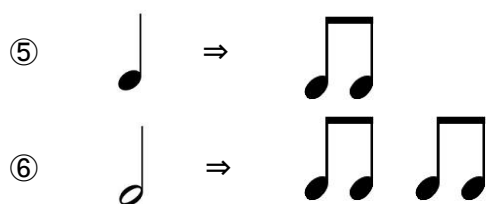
時配	○学習内容 ・学習活動 【共通事項】	○教師の働きかけ ◆評価規準 【評価方法】
<p>3</p> <p>9</p> <p>5</p> <p>2 3</p>	<p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカード（音符・休符・リズム） <p>○本時の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おぼろ月夜」（文部省唱歌）と「朧月夜～祈り」を比較鑑賞し、アレンジによる曲想の変化を感じ取る。 ・「朧月夜～祈り」の全体構成を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>朧①－朧②－祈り①－朧①－祈り②－祈り③</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Am-F-G7-C のコード進行を基にしてオリジナル「祈り」の旋律をつくろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・コード進行（Am-F-G7-C）を手がかりにして、簡単な旋律をつくることを知る。 <p>○「祈り」①までを聴き、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原曲である「朧月夜」に付け加えられた「祈り」の部分が、循環コード（Am-F-G7-C）の特徴を生かした旋律であることを知覚し、感受する。 ・「祈り」①までを鑑賞し、「祈り」の旋律を確認する。 ・教師の範奏で循環コードを使った旋律を聴き、学習の見通しをもつ。 <p>○「朧月夜～祈り」に使われている循環コード進行（Am-F-G7-C）に合わせて、自分の選択したリズムパターンと和音の構成音のみを使った4小節の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律づくりの流れとルールについて確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①リズムパターンを選ぶ。 ②和音の構成音から音を選び、リズムに当てはめていく。 ③キーボードで音を確認しながら仕上げる。 ④五線譜に記入する。</p> </div>	<p>○「朧月夜～祈り」が原曲を現代風にアレンジした曲であることを伝えてから鑑賞する。</p> <p>○イメージを膨らませるために、歌詞や写真を掲示する。</p> <p>○ギターの学習内容を復習しながら、コードは2つ以上の音の重なりであることを説明する。</p> <p>○4人で分担して16小節の「祈り」の旋律をつくることを伝える。</p> <p>○前奏部分の音楽を流し、それに合わせてキーボードでコードを演奏し、繰り返し聴かせる。</p> <p>○曲の進行に合わせて手で図示していく。</p> <p>○ヴァイオリンの旋律に着目して鑑賞するように助言する。</p> <p>○「祈り」の歌詞も掲示する。</p> <p>○教師がつくった旋律を数パターン演奏し、見本を提示する。</p> <p>○リズムカードと和音の構成音を掲示して、丁寧に説明する。</p>

	<p>・キーボードで音を確認しながら旋律をつくる。</p> <p>6 ○つくった旋律を教師または生徒自身が演奏し、発表する。</p> <p>4 ○学習の振り返りをする。 ・工夫した点について、学習振り返りカードに記述をする。 〔リズム、旋律、テクスチャ〕</p>	<p>○キーボードを弾いて、リズムや音の組み合わせを自分のイメージとかかわらせてつくるよう促す。</p> <p>◆関-① 循環コード進行の特徴に関心を持ち、和音の構成音を使って旋律をつくる学習に意欲的に取り組んでいる。 【活動の様子の観察】【振り返りカードの記述】</p> <p>○クラスの半数を目安に、早く完成した生徒から発表させる。</p> <p>◆技-① 和音の構成音を生かした音の組み合わせで旋律をつくり、楽譜に書いている。 【ワークシート】</p>
--	---	---

■ 1小節の中に入るリズムパターン



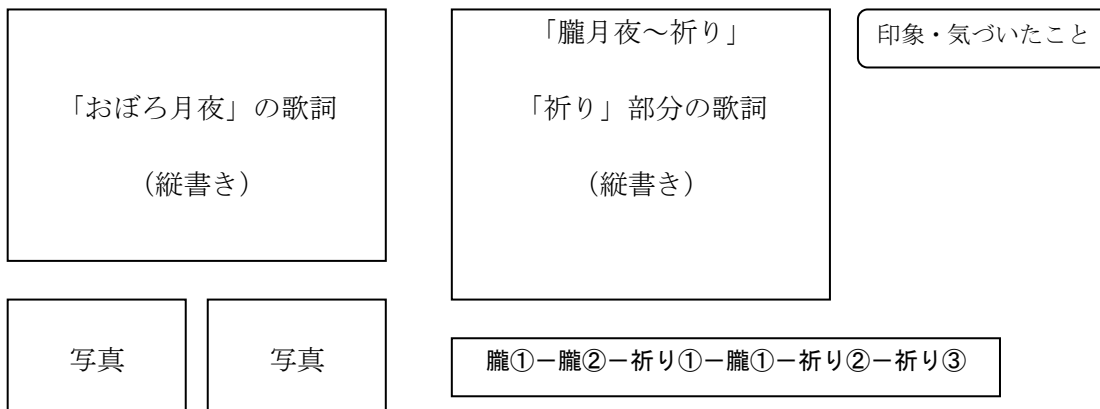
■ 跳躍または順次進行で音を増やす場合



- ・第1時では、①～④のリズムを提示する。
- ・第2時では、必要に応じて4分音符または2分音符を8分音符に変える。(⑤, ⑥)

<板書計画>

■固定黒板



■移動黒板

【学習課題】 Am-F-G7-C のコード進行を基にして旋律をつくろう

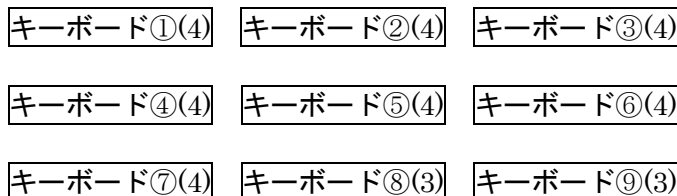
①リズム

②和音の構成音選択シート

階名を書いたマグネットシートを貼っていく。

①リズムパターンを選ぶ。
 ②和音の構成音から音を選び、リズムに当てはめていく。
 ③キーボードで音を確認しながら仕上げる。
 ④五線譜に記入する。

<座席配置>



4人で1台のキーボードを使用。
カシオ
ミニキーボード SA-76

クラビノーバ

移動黒板

固定黒板

市教研音楽部会 学習指導案

研究主題

「伝えよう 私の音楽 私の心」

〈研究の視点〉

- 視点1 思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために
- 視点2 思いや意図を表現する力を育むために
- 視点3 評価を生かした指導をするために

日 時 平成25年11月19日（火）

場 所 千葉市立みつわ台中学校

授 業 第1音楽室（3階）14:00～14:50

協議会 被服室（2階） 15:00～16:30

授業者 小幡 貴子

展開学級 3年2組

指導助言 太宰信也先生（千葉市立幸町第一中学校 校長）